

特産物の魅力発信

「食材パンフレット」作成へ

小美玉市

茨城空港近くに整備する複合施設「空の駅」（仮称）のレストランで提供するオリジナル料理や直売所で販売する総菜などのブランド化を進めている小美玉市は、その基となる市特産物の「食材テキスト」作りに取り組む。客への食材情報の発信とともに、販売に関わる農家の「教科書」とすることで、空の駅での6次産業化を具現化する。



6次産業化を目指し、農家の主婦らが「食のワークショップ」で作上げたオリジナル料理「小美玉市内

空の駅は農産物直売

や加工品物販、レストランなどを備え、茨城空港を訪れる人たちに空港が立地する地元の魅力伝える施設。同市の豊かな農畜水産物を生かした「食」の提供がメインで、地元産にこだわり、農家の主婦らによる料理の提供や加工品の販売を行う。

同市は昨年8月、地元農家や食の専門家らで構成する「小美玉地域再生協議会」を立ち上げ、独自料理創作に着手。その中で、「食

栽培法や歴史明記

6次産業化 1次産業の農林水産業が生産だけでなく、それらを原料とした加工食品の製造、3次産業分野の流通・販売までを行い、一体的に産業化する。所得向上、農山漁村地域の活性化を目指す取り組み。1、2、3次を掛け合わせるという意味で、6次産業としている。6次産業化法は2011年3月1日施行。

「食材テキスト」の検討や類を増やし、食材が購入できる場所を明記するなどを開催するなど、最終的にはパンフレットとして完成させを進めてきた。

食材テキストは第1施設オープン後は、弾として、市内特産物施設内の情報発信の場として、「ゴボウ」「レンコン」「ウエルカムセンタ」「イチゴ」「柿」などで客が手に取れるの4品を公表。各食材ようにしていく。

市に担当者は「テキスト栽培法、品種、味、効果の充実や料理のワ能などが明記され、ワークショップを重ね、にはこれら農産物の魅力売れる商品を作りたい力を発信でき、食材をきたい。売りたいと考提供する農家にとつてえる市民を増やし、6は、扱う農産物を再確次産業の裾野を広げて認でき、食べ方の提案いきたい」と話しているなど販売に役立たせる。空の駅は来年2月オープン予定。

テキストは今後、種 (黒羽根勝弘)